

事例 8

基幹技能者などの資格取得を奨励 法定外労災の保険制度も整備

ゼネコン各社の発注による型枠工事に加え、住宅、ビル、マンションなどの総合建築工事を手がける興信建設。重点項目を定め安全衛生管理に取り組み、万々に備え、法定外労災の保険制度も整備し、人材育成に力を入れる。平成23年、後進の指導・育成にも貢献してきた建設マスターが勲章を受章。

株式会社興信建設・東京都

同社は東京都杉並区に本社を構え、メインの型枠工事のほか、総合建築工事を手がけている。

従業員数は、社員25人、直用の作業員80人、外注の作業員40人、計145人という陣容。

各種資格講習会を実施し、資格取得を全面サポート

同社の堅調な経営を支えているのは、周到な安全衛生の取組みである。安全衛生管理は、月間安全衛生目標や実施事項などを盛り込んだ各年度の計画表を策定し、これに基づいて着実に実施。「雨季の足場作業時の注意」、「熱中症の予防」、「睡眠の確保」、「台風及び突風時の安全対策」など、季節に応じた取組みもある。年度を通じては、「安全衛生協議会」、「安全パトロール」、「各種資格講習会」の3点に重点を置いて推進している。

安全衛生協議会は、毎月開催。職長が集まって、同社の安全に対する考えを確認し、安全パトロールの指摘事項や指示事項を再確認しながら安全意識の向上を図る。また、施工や工程上の問題点などがあれば、参加者全員で検討し、効果的な解決方法を導き出している。

安全パトロールは、無事故・無災害を目指して、毎月4回実施。常時15～16ある全現場を社長自ら巡回して点検し、作業員の安全意識の向上とヒューマンエラーの撲滅を図っている。

各種資格講習会を重点項目として挙げているのは、作業員の技術向上と、安全作業の確



安全大会の様子



安全大会では、安全教育用DVDを上映し、ヒューマンエラーの防止に努める



松井建設の中央安全衛生委員会・災害防止協力会発行の『みんなの安全』に、自社の安全活動を紹介

実な実行のためであり、毎年度、資格取得のサポートを活動計画に盛り込んでいる。各種資格講習会を受講する費用は、すべて会社持ちである。職長、型枠支保工、玉掛けの資格は、ほとんどの職人が取得済みである。

法定外労災の保険制度を整備

安全大会は40年ほど前に始めて以来、毎年開催している。安全大会では、安全衛生活動の功労者はもちろんのこと、資格取得を奨励するため、1級型枠技能士、登録型枠基幹技能者の資格取得者も表彰する。また、安全衛生方針や、型枠組立作業手順書、資材の取り扱いなどについても周知徹底を図る。さらに、「労働災害に潜む『ヒューマンエラー』」、「『ヒューマンファクター』とは何か？」など、安全教育用DVDも上映し、ヒューマンエラーの防止に努めている。終了後は、懇親会を開催して親睦を図っている。

福利厚生や親睦、災害防止面では、2つの組織が活動している。1つは、事業の発展と親睦、福利厚生の増進を目的として協力会社で組織し、社長が顧問を務める「興信建設興友会」。もう1つは、同社と協力会社が連携して、安全活動の推進や、労働災害の補償に関する相互扶助を目的とする「興信建設災害防止協力会」である。興信建設災害防止協力

会では、法定外労災の保険制度を整備。

インドネシア研修生の教育にも全力注ぐ

三鷹営業所内の作業員宿舎は食堂や浴室を完備。賄いの人がおおり、利用者には朝食と夕食を提供している。現在、25人が居住。その中には、インドネシアから来日した研修生3人も含まれる。

研修としては、資材センターで、ベニヤ、消耗金具のフォームタイ、ビーム、サポート、パイプなど、資材の知識を身につけてもらい、現場ではベニヤを建てるなど型枠工事の作業実習を行っている。